

# 研修の資料



2006年度NGOスタッフのための  
国内／海外研修報告

2007年4月7日(土)  
於 JICA地球ひろば







「住民主体」を考える

ソムニードとVVK(女性自助グループの連合体)との関係をたどるなら何？

教え、教えられる

- 師匠と弟子
- 美術教師と生徒

育てる

- 動物の親子
- 大地と作物
- トレーナーと盲導犬

## 待つ

- 自然と人間
- 太陽と旅人
- 運んでもらう人と自動車

## 広める

- 旅の武芸者と町の道場に通う人
- 16世紀前半キリスト教宣教師と信徒会
- 伝道師と土地の人
- 旅芸人と旅先の人たち

## 気付く

- リトマス試験紙と溶液
- 長老と村人

## 新しいものが生まれる

- 助産師と妊婦
- 触媒と溶液

## 「参加」と「主体」

- 「住民参加型」と「ソムニード参加型」
- 「住民主体」と「ソムニード主体」

## 私たちの考える NGOとJICAの連携のあり方

### NGOにとってのメリット (1)

- 資金
- 情報の共有
- NGO同士の情報の共有の「場」
- 事業を進める上での地元行政とのやりとりがスムーズに
- 組織体制を整える
- スタッフの事務処理能力を高める

### NGOにとってのメリット (2)

- いい意味での緊張感
- 思い込みの修正ができる
- 物資を日本から現地に送るときのサポート
- JICAの人材の活用(専門家)
- ネームバリュー
- プロジェクトの成果を制度化(フォーマル・持続性・点から面への広がり)

### JICAにとってのメリット

- 見える情報、生きた情報を収集できる
- プロジェクトサイト国と日本の友好関係づくりのきっかけとなる
- 今後のNGOとの関係・協力についてのアイデアを得る

### JICAにしてほしいこと (1)

- 新鮮な情報を提供
- 事業内容の変更に柔軟に対応
- 研修の場の提供
- コーディネーターとしての機能
- 専門家の紹介
- NGOのC/Pの本邦研修
- プロジェクト報告会の広報

### JICAにしてほしいこと (2)

- 草の根に関わるNGOの横の繋がりがづくり
- 青年招へいの受け入れを草の根事業実施団体につなぐ
- 草の根事業に関するFAQデータベースの充実
- 青年招へい/技術研修の情報をいかに当該国のNGO側に伝えるかの工夫
- 草の根事業の取り組みの広報

### JICAにしてほしくないこと

- 放ったらかしにしないで
- すべてを日本だけで判断しないで
- 地域やNGOの状況にそぐわない単一的な見解や対応はしないで (NGOスタッフの待遇、資金の使い方など)

## 草の根技協のこれから・・・

- 大切なものは、目に見えないんだよ
- 「草の根」から「木の根」になろう 

NGO スタッフのための国内/海外研修 参加者アンケート まとめ

研修お疲れ様でした。今後の研修企画・運営の参考として役立させていただくためにご意見をお聞かせください。

I 研修の目的やテーマの達成度等について

(1) 今回の研修で、当初に皆さんが目標としていた点はどれくらい達成できたでしょうか。

(1)-① 当初学ぼうと考えていた目標は何でしたか。(研修概要に書かれていたこと以外でも構いません。複数挙げても可)

- ・草の根プロジェクトでの JICA との関係。
- ・現地住民、行政との関係。
- ・現地スタッフとの雇用関係。
- ・現地プロジェクトの進め方について(特に現地の人々の意向やポテンシャルを最大限に活かす形で)示唆を得ること。
- ・国外活動について国内の支持者にいかに上手に情報を伝えてゆくか、学ぶこと。
- ・「開発援助」そのものについて、日本人として「北」の国の人間として、どのように関わってゆけるか自分なりに考察を深めること。
- ・住民が主体となったコミュニティ開発とはいかにして可能か。その中で、外部者であるファシリテーターの役割。
- ・ JICA との連携をどのような形で行っていけばよいか。
- ・現地の人との接触の仕方。
- ・オバチャンへの責任のかけ方。
- ・インドの経済成長と格差社会の日本国内報道等(イメージ)と事実(現地)の確認。
- ・開発途上国での日本の NPO の活動状況を理解する。また、NPO 団体が JICA 現地事務所との協力をどのように行っているかを理解する。

(1)-② その目標はどのくらい達成できましたか。5段階評価とともに、特にどんな点がよく達成できたかを教えてください。

【達成度】

1:かなり多くを学べた(4) — 2(1) — 3:ほぼ学べた(1) — 4(1) — 5:不足した(0)

【特に達成できた点】

- ・ JICA との関係。
- ・住民との関係(住民本位のプロジェクト)。
- ・国外活動について国内の支持者にいかに上手に情報を伝えてゆくか、学ぶこと。
- ・「開発援助」そのものについて、日本人として「北」の国の人間として、どのように関わってゆけるか自分なりに考察を深めること。
- ・ソムニードが VVK の女性達に寄り添い、つき放し、考えさせていく技術を観察したり、それについての話を聞くことによって、ファシリテーターのあるべき姿を整理することができたこと。
- ・現地人との「着かず」「離れず」の微妙な関係。
- ・待つ、ということ。でも、ただ待つのではなく、適切なアドバイスをする、オバチャンの次のステップを考え、体制を準備しておくこと。
- ・市民生活に直接参加する事で、政治や経済の基までは理解出来なかったが、大方の社会状況は見て取れた。
- ・インドにおけるスラムに住む住人たちに合ったコミュニティ開発の姿を理解した。ソムニードが JICA との情報の共有のために努力していることを知る。

(2) 上記以外で、今回の研修で特に得られた事柄はありましたか。

- ・NGOの姿勢。
- ・東京以外の地域で活動なさっている方々との普段の活動内容や感じていることなどの意見交換を出来たこと。
- ・草の根技協等を通じJICAを始とする他のアクターと協働していく上で私達NGOがどのように考え、行動していくことが必要か。
- ・VKKの「支えあい方式」は、いわば「CO-OP」に似ており今後の病院運営に応用できればと思った。
- ・話してくれた相手へのフィードバックの大切さ。フィードバックは情報共有の一步。
- ・今までの自分の活動がソムニード方式に似ている点を確認出来た。
- ・草の根技術協力事業が具体的にどのように行われているかを理解した。

(3) 今回の研修で学んだ点について、どのような形でご自分の活動に生かしていこうと考えていますか。

- ・整理し、そのまま適応できること、アレンジして適応できること、出来ないことに分け、自分たちが実施しようとしているプロジェクトに応用します。
- ・所属団体の民際協力活動の実践（特に東ティモールでのコーヒー農民支援事業）およびJICAのみならず今後の連携に、今回得た知見を活かしてゆければ、と考えております。また、国内広報活動のあり方（分かりやすく誰にでも分かる平易な言葉で伝える）にも学ぶことはとても大きかったので自分たちの活動を支援者の方々に伝えてゆく上でも参考にしてゆかれればと思います。
- ・「国際協力」「開発援助」と言う考え方そのものについて根本的な関わり方を自分自身で問い直すことができたので、今回考えたことを契機に今後の自分自身の研究活動に活かしてゆきたいです。
- ・現地NGO（インドネシア）と協力しながら進めていく、市民社会ネットワーク構築活動や、今後申請していく草の根技協プロジェクトにおけるファシリテーターとしての行動（どう対処すべきか、何を言うべきか等を今回学んだことに照らし合わせて考える。
- ・何でも「与える」方式ではなく、本当に「必要とする」形は何かを現地の人に考えてもらうこと。
- ・いままで返さずそのままにしていたメールが多々あった。失礼なことをしていた。メールがきたら相手にメールなり電話でフィードバックする。
- ・ソムニード方式の指導を小学校低学年から始めたい。
- ・草の根技術協力事業のTFGプロジェクトが数ヵ月後に動き始める。実際に事業を進めるに当たってのアイデアをいくつかもらうことができた。

(4) 今回の研修の目的であったのに、達成できなくて残念だったことはありますか。

- ・現地の住民、NGO、行政官ともっと話し合いたかった。
- ・特にありません。
- ・現地NGOと適切な協力関係を築いていくためのアプローチについて直接的には学ぶ機会がなかったが今回学んだこと応用してこれからも自分なりに考えていく課題であると思います。
- ・特にない。
- ・VVKへのプレゼンで、理念が見えないというのを「夢の共有をした方がいい。」と伝えた。うまく伝えられなかった。私自身も分かっていなかったからだと思う。
- ・目的ではなかったが、出来ればテルグ語を学びたかった。
- ・特になし。

## II 事前準備について

以下の設問について、5段階評価及び記述によりご回答ください。

(1) 研修についての事前情報の量・質は適切でしたか。また感想・改善提案をお寄せください。

【量】

1:かなり多い(0) — 2(3) — 3:ほぼ適切(1) — 4(2) — 5:不足していた(1)  
( )

【質】

1:かなり多い(0) — 2(1) — 3:ほぼ適切(2) — 4(3) — 5:不足していた(1)  
( )

【提案等】

- ・受入れ団体であるソムニードの活動に関する情報は量も多く内容も詳しかったので、研修の準備にとっても役立ちました(\*ただ、研修そのものに関する情報は少なかったように感じるので、たとえば参加者(JICA職員の方、コーディネーターの方含む)は全体で何名かのなどの情報は事前にいただけたらもっとよかったですと思います)。
- ・インド国全体の情報以外に、研修実施地(ビシャカパトナム)の情報や注意事項(服装や気候、風土対策など)もできる限り細かく伝えていただければもっとよかったですと思います。
- ・恐らく、時間がない状態での研修であったように思う。事前学習では未消化であった。しかし、現地に行き事前学習の中味はそれなりに理解できた。
- ・振り込まれたお金の意味が、詳細が分からなかった。支度金があると知っていたなら、インドの情報をのせた本を買っていた。
- ・研修前のメール、メールアドレスの公開(CCで送られていた) BCCにして個人情報を守ってほしい。
- ・ソムニードの草の根事業内容にローンがあり、インド経済の現状も知る必要があると思い独自で下調べを行った。できれば資料の事前提供が欲しかった。

(2) 3月25日、26日の事前研修「プロジェクト概要説明」「ワークショップ」の中身と量は適切でしたか。また中身について感想・改善提案をお寄せください。

【量】

1:適切だった(0) — 2(3) — 3:ほぼ適切(2) — 4(2) — 5:不足していた(1)  
( )

【質】

1:かなり多い(0) — 2(1) — 3:ほぼ適切(2) — 4(3) — 5:不足していた(1)  
( )

【提案等】

- ・ワークショップの際、事前にどこまで準備して日本を発てばよいのかがメンバーの間で共有されておらず、やや慣然とした感じになっていた点が少しやりづらく感じました。
- ・事前研修のセッションの中で参加者のバックグラウンド(日常の活動内容等)について、より深く共有できるとよかったですと思います。
- ・ソムニードの竹内さんの話があったのでよく理解できた。
- ・ものごとの考え方、整理の方法。今後の仕事に役立つ内容でした。
- ・参加者の業務内容・経歴等により事前研修の中身は変更すべき又は柔軟な対応を希望(長畑さんの反省の弁より)。

- (3) ご自身で、事前にもっと準備しておけばよかったと思うことがありますか。現実的にできそうであったことなどがあればご記入ください。

- ・研修参加決定後の時間が少なかった為、現地に関する情報が不足していた。
- ・特にありません。
- ・(2)に関連して、参加者間で共有する際の参考資料あるいはたたき台として自身の活動の内容と直面している問題等について紙に落とす作業。これによって、ワークショップの中で共通の課題を持つための議論を提案することもできたのではと思っています。
- ・事前配布の資料など読みきれなかった事もあり準備不足は否めなかった。百聞は一見にしかずの通り「PCUR-LINK便り」に書いてあった事はよく理解できた。
- ・インドの地理を調べる。
- ・インドの文化を調べる。
- ・インドの宗教を調べる。
- ・一般的なスラムの概念を学ぶ。
- ・インド国内の外資参入の事実(現状)。これは今後調べる予定。
- ・特になし。

### Ⅲ 海外研修のプログラム内容について

- (1) 全体のスケジュールは適切でしたか。また感想・改善提案をお寄せください。

【量】

1:かなりきつい(0) — 2(2) — 3:ほぼ適切(5) — 4(0) — 5:十分余裕があった(0)

【提案等】

- ・毎日18:00頃と比較的早い時間に1日のスケジュールが終わったことが体力の面でも非常にやりやすくよかったことです。
- ・環境変化に「老体」としては少しつらかった。
- ・時間集中型で個人的には集中しやすかった。
- ・ビシャカパトナムでの研修日程を増やす。

- (2) もっと時間のほしかった訪問場所・プログラムや、加えたらいいと思われるプログラムがありましたら教えてください。

- ・農村地域を訪問したかった。都市だけの訪問では経済の表面しか見えません。
- ・実際にスラムを訪れた際にもう少し具体的にお互いのことを話し合うだけの時間があればよかったと感じました。
- ・現地で和田さんのワークショップが丸一日あるともっとよかったです。
- ・今回のセッションはかなり駆け足であったのであれだけの濃い内容を消化するにはもう少し時間が必要かと思います。
- ・他NGOが近所にあるならその訪問もしたかった。
- ・今の私には適当だったと思います。
- ・ビシャカパトナムでの訪問先の充実。農村部への訪問は可能では？
- ・JICAインド事務所より提案のあった歴史的建造物等の観光も必要では？
- ・複数のNGO団体の活動現場を見学すること。

(3) ビシャカパトナムでのプログラムで、特によかったと思われるものや、改善したほうが良い点などがありましたら、教えてください。

- ・ VVK、SHGのメンバーたちと もっとフランクに話し合える時間がほしかった (テーマを持たずに)
- ・ 直接プログラムとは関係がありませんが偶然の機会もあり JICA デリー事務所の佐々木さんが道中ずっと同行して下さったことは彼女がとてもインドにお詳しくあったこともありとても心強かったです。一緒にいらして頂くことができ本当によかったと思います。
- ・ 都市および農村訪問は時間の関係で 1 チームが双方に訪問できなかった事が残念。
- ・ 最後のソムニード事務所訪問、時間が少なかった。もっと話がしたい人がいたのでは? それに、いろいろな意見が聞きたかった。
- ・ ソムニードの受け入れ体制の研修内容は特にすばらしく、加えて市民 (SHG、VVKを含む) の親しみやすさ、安定した地域社会等の理由で滞在期間延長を希望。
- ・ VVKメンバーによる活動紹介がよかった。
- ・ SHG 訪問。
- ・ スラムの女性達に実際に会って話をする機械をもてたことがとてもよかったです。

(4) 帰国後のセッションや報告会について、そのスケジュールと中身について感想・改善提案をお寄せください。

【スケジュール】

1: 時間が充分にあった (0) — 2 (0) — 3: ほぼ適切 (4) — 4 (3) — 5: 時間が不足していた (0)  
( )

【提案等】

- ・ 報告会までにもう少し時間があると準備にも余裕ができたかと思えます
- ・ 少し「遊び」時間 (踊り、歌など) があつたら・・・と思った
- ・ 時間の不足を感じたが、あの時間でやれることをやる、というのが研修なんだなと思った
- ・ 帰国後の日程を延ばし、報告書まで東京で作成したい。各自 PC 持ち寄りでも可能では?

#### IV 運営・実施方法について

(1) 研修の実施時期は、適切でしたか？

ア 適切 (5)      イ 他の時期がいい (2)      ⇒いつ頃が良いですか？

- ・ 2月
- ・ 悪くはないと思いますが年度末で忙しい時期でもあるので、たとえば初夏などの方がさらに参加しやすかったかもしれないと思いました。
- ・ 年度末以外。

(2) 研修の期間 (全体で14日間) はいかがでしたか？

ア 適切 (6)      イ あまり適切でない (1)      ⇒何日が良いですか？

- ・ 20日
- ・ 国内研修 (事前) をあと1日追加してもいいと思います。

(3) 研修生の人数はいかがでしたか？

ア 適切 (7)      イ 余り適切でない (0)      ⇒何人ぐらいが良い？

- ・ 特に女性と男性が1:1

(4) フライト・宿泊施設・現地での移動手段はいかがでしたか。全体的な満足度を記入してください。また感想・改善提案もお願いします。

①フライト (利用した時間帯及び航空会社について)

【満足度】

1:十分満足 (3) — 2 (1) — 3:ほぼ適切 (3) — 4 (0) — 5:不満 (0)

( )

【感想等】

- ・ 行き帰りともに空港でラウンジが利用できたことには驚きました。
- ・ 最初、正規運賃であることに疑問を感じていたが、それにする意味が理解できたので満足。
- ・ 国内空港間の移動が不便。

②宿泊施設

【研修日程全体を通じた満足度】

1:十分満足 (2) — 2 (3) — 3:ほぼ適切 (1) — 4 (1) — 5:不満

( )

【個別の宿などの感想等】

- ・十分満足。
- ・デリー：部屋の大きさにだいぶ違いがあったことが少し不公平だったかなと思いましたが前半小さな部屋だった自分自身もあまり不便は感じなかったのがよかったとおもいます。  
ビシャカパトナム：パーティー会場の音が気になりましたが基本的にはとても過ごしやすいホテルでした。
- ・人それぞれのペースがあるし、体調を崩す時もあるので個別でよかったと思う。
- ・デリー：不衛生で部屋が狭い。シングルより広いツインが欲しい。  
ビシャカパトナム：夜間、騒音が連日。深夜の部屋移動。

③現地での移動手段

【満足度】

1:十分満足(5) — 2(1) — 3:ほぼ適切(1) — 4 — 5:不満

( )

【感想等】

- ・ドライバーさんが皆さんとてもいいに運転されていた。

(5) その他、海外研修中のロジ関係で改善すべき点がありましたら教えてください。

- ・アランドについて、もう少し参加者への気配りがあるとよかったのではと思います。
- ・特になし。

(6) 参加者の皆様に担っていただいた報告書執筆分担等の量はいかがでしたか。

【量】

1:多すぎる — 2 — 3:ほぼ適切(4) — 4(1) — 5:もう少しあってもよい

( ) 無回答(1)

【提案等】

- ・現在執筆作業中です。
- ・どうしても研修後だと日々の仕事に追われて時間がとれなくなってしまう。研修をしながらラフな報告書を平行してつくうる手段を考えたかった。
- ・可能な限り全員の同時作業で進めたい。研修期間内に報告書を仕上げたい。

## V 全体を通して

(1) 将来「NGOスタッフのための国内/海外研修」などNGO向け研修において取り上げたら良いと思うテーマがありますか。また所属されている団体から希望するテーマはなんでしょうか。

- ・農業、林業、漁業、環境
- ・特に「北」の国の人々と「南」の国の人々がどのようにつながりを持ち、ネットワークを広げてゆけるかについて考える機会の多い研修があればと思います。
- ・コミュニティ開発ファシリテーションプロジェクトの運営について。
- ・特にないが「思い込み」活動を脱却する意味で今後の活動のあり方を考えさせるソムニード以外のNGO活動があれば研修に取り上げてもよいと思う。
- ・現地行政とNGOとの関係について。今回行政との関係をのぞけなかったのも。
- ・「子どもの人権」

(2) 研修の内容に関して感想・コメント・ご意見・ご要望

- ・私にとってSOMNEED、JICA、研修仲間から学んだことが多くとても有意義な研修でした。
- ・JICAスタッフの方、コーディネーターの方、その他の方々など、どなたが今回のツアーの実質的な全体責任者だったのかが明確ではなかった点に少しだけやりづらさを感じました。日々の工程は誰に従い、テーマ設定は誰に従えばよかったのかももう少し明確だったらよかったと思います。参加者が主体で決めるといことと、ツアーの枠組みがテーマ設定も含めてきちんと設定されているということは十分両立しうるはずなのに前者に重きを置いているように見せかけて後者が少々おざなりになっているような印象を受けたことが残念でした。
- ・全体を通して大変勉強になり感謝しております。今後も私自身のファシリテーション技術、能力を向上していけるよう努力していこうと痛切に感じるきっかけとなりました。刺激を受けるというのはとてもありがたいです。どうもありがとうございました。
- ・海外活動等にみんな憧れていると思うが、必要な小道具（線香等）の情報をコンパクトにまとめて頂けると助かると思います。
- ・NGOスタッフだけでなくインターン生にも参加を広げてほしい。この研修は「人を育てる」ものだと思うので。
- ・JICA職員の方と研修を共にするのはいい機会だった。今後もこのカタチで進めてほしい。
- ・研修でえたモノは多く心から感謝いたします。特にインドでコーディネート下さった佐々木さん有ったの研修の成果ではないでしょうか。彼女こそJICAに欠かせない人材だと思います。
- ・草の根技術協力事業をこれからはじめてやろうとするNGO団体にとっては今回のような成功しているNGO活動を見学でき個人的にも大変助かった。具体的にどうすればいいのかわからないことが多かった。

★その他、事務局の手配・準備等について、また上記質問ではカバーされていなかった事柄について、次回への提言やお気づきの点、改善点などがあればご記入ください。

- ・2週間大変お世話になりました。心よりありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
- ・特にないが、出発までの時間的余裕が少なかったと感じた。
- ・最後の報告会の宣伝が遅いのと、もっと他の職員の方に見てきてほしかった。目前に公開だと知っていれば自分の職場の代表に伝えられた。
- ・事前準備から研修終了まで地球ひろばの役割が解らず終いのまま。

★ ご協力ありがとうございました。★

